



横浜訓盲学院 だより

第29号 (2013年11月号)

2013年11月1日発行

〒231-0847 横浜市中区竹之丸181番地 URL : <http://kunmou.jp/>

事務部

TEL:045-641-2626 FAX:045-641-2627
E-mail : jimmu@kunmou.jp

普通部

TEL/FAX:045-662-1710
E-mail : futsuu@kunmou.jp

理療科

TEL/FAX:045-662-1833
E-mail : riryou@kunmou.jp



学院の新しい取組—全国的な研究会の開催

学院長 中澤 恵江

今年の8月3日(土)、4日(日)の両日、「全国盲ろう教育研究会」が主催する第11回研究協議会が、学院を会場として開催されました。学院は共催者としてその実施を支えました。

全国盲ろう教育研究会は目と耳の両方に障害を併せ有する盲ろう児・者の教育及び福祉の向上に寄与することを目的とする、全国的な研究会です。会員は、盲ろう教育にかかわる学校教員だけでなく、盲ろう当事者、その家族、盲ろうの療育・リハ・医療・通訳介助等にかかわる専門家および研究者等です。参加者は関東各県だけでなく、山梨、静岡、新潟、福井、広島、岡山、福岡、大分等からも集まり、学院の全教職員も参加し、約120名が盲ろうにかかわる各地の実践を、講演、実践報告、ポスター発表、分科会、交流を通して分かち合いました。

学院には10名の盲ろう幼児児童生徒が在籍しており、現在、日本において最も盲ろう児の在籍数が多い学校となっています。実践報告においては、学院の教育について発表し、教室環境や教材の工夫について実際に見学していただき、学院の教育を全国に発信する貴重な機会となりました。



全国盲ろう教育研究会
第11回研究協議会



このように多くの参加者を迎えた研究大会を学院で開催するのは、初めてのことでしたが、参加者からのアンケートには高い満足度が示され、無事に終了することができました。今回の取組を通して、各地の実践から学ぶと同時に、全国に横浜訓盲学院の盲重複・盲ろう教育について発信していく新たな方法を確かめられたように思います。私立盲学校ならではの教育実践について、さらに発信を続けていきたいと考えております。



「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、
あなたの神である主を愛しなさい。」

ヨハネによる福音書12章30節

《11月の聖句》神を信じて愛することは、人を大切に、思いやることです。



**幼小グループ
社会体験学習
野毛山動物園**



9月13日(金)幼小グループでは、秋の社会体験学習で横浜市立野毛山動物園に行きました。先日、野毛山動物園はインターネットの口コミ旅行サイトで「行ってよかった動物園全国5位」として紹介されたばかり。

スクールバスに乗り、元気に朝の会をしているうちに動物園に到着。きれいな花壇の前で集合写真を撮り、次に、出迎えてくれた大きなライオンの募金箱の口に手を入れ、「あっ食べられちゃった」と、盛り上がりました。いろいろな動物の鳴き声を聞いたり、ラクダやキリンと写真を撮ったりしながら、恒例のなかよし広場に到着。飼育員さんの説明を受け、ハツカネズミ、モルモット、ヒヨコ、ニワトリたちとたっぷり触れ合いました。動物園に行くのがはじめてのお友だちも、びっくりどきどきしながら、優しくなでることができました。

天気にも恵まれ、動物たちと仲良くなれ、みんなでお弁当を食べたりして、とても充実した楽しい一日を過ごすことができました。



中学部 作った、食べた、修学旅行

10月1日～3日、中学部6名の全員参加で新潟県越後湯沢方面に修学旅行へ行きました。今回の旅行では、「駅弁」「ニジマスのつかみ取り」「ポップスレー」「ピザ作り」「機織り」「そば打ち」と、様々な体験をすることができました。岩村さんと磯川さんは、いけすで泳ぐニジマスに緊張しながらも両手でつかみ取り、内臓の取り出しも自分でできました。

つむぎ記念館では、「コロコロ」「パタンパタン」と言いながら、とても上手に機織り機を操作していた河室さん、シモカワさん。学校で練習した「うどん打ち」を活かして、そば粉をまぜる、まとめる、切るという作業を落ち着いて行っていた長谷川さん。湯田さんは、駅弁、ニジマスの塩焼き、ピザ、そば、どれも美味しく食べることができました。みんなが新潟での体験を楽しみ、一緒に成長できた素敵な修学旅行となりました。



高等部 生活科 作業所実習について



夏休み中、1年生の安部さんが「ワークショップブルースカイ」と「第二ブルースカイ」へ作業所実習に行ってきました。初日の午前中は緊張した面持ちでしたが、

作業所の職員さんに仕事の内容ややり方を教えてもらい、繰り返し行っていくうちに、次第に笑顔も見られるようになりました。一日を通して古本の清掃作業に取り組み、午後には作業内容も覚えてほぼ一人で行うことができるようになりました。

二日目の午前中は、第二ブルースカイでプレスレット作りに挑戦しました。好きな色の紐を選んで、職員の方と会話も楽しみながら一緒に作りました。午後は作業所の利用者の方と一緒に、中スポーツセンターへ行き、スポーツチャンバラをしてきました。試合に勝つことはできなかったものの、みんなから声援をいただき、楽しく活動することができました。

二日間ともに、作業所の職員や利用者の方々との交流を図りながら、充実した実習となりました。

視覚障害



「図」と「地」のコントラスト

あるものが、背景とはっきり分けてわかる時、心理学では、浮き上がってわかるものを「図」、背景に退くものを「地」と呼びます。視覚障がい者にとって見えやすく、聞こえやすく、感じやすくするためには、この「図」と「地」のコントラストをはっきりさせる工夫が役立ちます。

身近な生活の中では、点字ブロックや段差の端は、色でも感触でも「図」と「地」をはっきり区別しやすいデザインの代表です。濃い地色に、白い文字やシンボルの表示板を、駅や街中でよく見かけられるようになりました。食事の時には、濃い色の食器や黒いしゃもじだと、白いご飯が見えやすくなります。黒地に白く盛り上がった目盛の定規や、黒いまな板など、工夫された教具や道具もあります。騒音のなかでは聞きとりにくい話も、静かな場所だと聞きとりやすくなりますし、ごちゃごちゃした背景の写真より、すっきりした背景の写真の方が見分けやすいものです。

このようなわかりやすい環境は、自分で感じ、自分で判断する力を養いながら、自信を持って生活し、学習していく基盤になります。学院の環境や学習の中にも、この「図」と「地」のコントラストを活かした様々な工夫があります。学院にいらした際には、ぜひ、発見してみてください。

—ドレーパーファミリーと横浜訓盲学院—

横浜訓盲学院は、1889年(明治22年)アメリカ人宣教師ピンクニー・ドレーパー女史によって創設されましたが、ピンクニーの死後、息子夫婦のギデオンとマイラ、孫のユニフレットやメリオンによって守られ、今村幾太の働きによって現在の学院の基礎が築かれました。

訓盲学院の出発には、家族を失う悲しみを隣人愛につないでいく祈りがありました。死の悲しみの中にも神の深い摂理を見出し、神の御計画を信頼する心がありました。

ドレーパー家族のなかに見出す、横浜訓盲学院のキリスト教精神を紹介いたします。

- ①弱い者、小さな者への愛が中心にある(一人の貧しい盲人の少女との出会いから訓盲学院が生まれた)。
- ②ささげる姿勢が貫かれている。それは献金だけでなく、自分自身を御用のために用いようとするところである(ピンクニーは「神様の御用は生きているうちにしなくては意味がありません」と言って横浜と函館に訓盲学院を造った)。
- ③信頼し続けることである。相手を信じることからはじめ、裏切られても信じることを心掛ける(日本人を信じ続け、信頼する心から人と関わって生きた)。
- ④苦難を大切な経験とする。苦難には、自分を育てる面と人に対する思いやりを養う面がある。そして、神は耐えられない試練を与えない。必ず逃れる道を備えてくださる。(ピンクニーは夫の死からスタートし、苦しみを神の御旨として受け入れた)。
- ⑤希望を持つ。そして、希望を持ったなら先取りして喜ぶ(訓盲学院に相応しい土地を見つけたときに大変喜び、それから買う資金を集めた)。
- ⑥行動力を重んじる。新しいことに恐れずチャレンジして行く(神様への感謝の祈りが行動力となって希望の実現

目白教会牧師(横浜訓盲学院理事) 古旗 誠

となっていた)。

- ⑦ユーモアを持つ。耐える力を与え、前向きにさせていく(苦しくても笑って喜ぶ。いつも前向きに理解していける力を神への信頼の中に見ていた)。
- ⑧ひとりを大切にする。多数の中でもひとりを大事にしていく(いつも、一人の救いを心にかけていた)。
- ⑨ハンデを持つ人が、世の光となって周囲を照らすようになる(盲人に光を届けるだけでなく、盲人自らが世の光となって周りを照らすことを重んじた)。

※横浜訓盲学院では、毎週木曜日、みんなが集まって礼拝をします。みんなで楽しく賛美歌を歌い、暗唱聖句を発表し、聖書の御言葉に励まされています。子ども達や学生を通して、神の栄光が現され、世の光となってまわりを温かく照らすことができますように。

助成金贈呈式

9月11日(水)、「みずほ教育福祉財団」様より助成金の贈呈式が横浜訓盲学院会議室にて行われ、同財団の上田靖常務理事と鎌田栄次郎顧問が来校され、中澤恵江学院長に目録が渡されました。

今年度の助成金で、アルミミラー、LEDビームライト、テレビ、ブルーレイレコーダーを購入することができますことに感謝いたします。本当にありがとうございました。

同日、「神奈川韓国青年商工会」様主催による社会福祉のためのチャリティゴルフ大会の席上にて、寄附金の贈呈式が行われ、堀忠蔵理事長が同会の金繁男会長より寄附金をいただきました。本当にありがとうございました。

思う
ツボ

肩甲間部(左右の肩甲骨の間)とツボについて

東洋医学では、古来より、子供の成長過程や邪気(風邪・熱邪・湿邪・燥邪・寒邪)の侵入により、身体中の気の滞りや変調が起こると考えられています。その症状として肩甲間部に圧痛や凝りが現れる事が多く、ツボに鍼灸刺激をすることで気の滞りを改善しています。

以下、左右の肩甲骨の間にある代表的なツボの紹介をします。

- ①身柱穴(別名:ちりけ。首の付け根にある骨の出っ張りから3つ目と4つ目の突起の間)
お母さん達が悩む子供の夜泣き・疳の虫等の精神的な興奮に対し、身柱穴を刺激することで興奮を静めることができます。家庭で行う場合はスプーンの裏を使って優しくこするだけで良いと言われています。
- ②風門穴(首の付け根にある骨の出っ張りから2つ目と3つ目の突起の間で左右へ約3センチ)
これから朝晩の気温が下がり、背中がぞくぞくしてきたならば、風門穴を温めると寒さによる邪気の侵入を予防できます。
- ③膏肓穴(首の付け根にある骨の出っ張りから4つ目と5つ目の突起の間で左右へ約6センチ)
古典に“病、膏肓穴に入る”とありますが、これは治る見込みがないほどの重病になるたとえです。膏肓の膏は横隔膜の上を指し、肓は心臓の下を指します。ちょうどその間の肩甲間部には薬や鍼も届かないので、病気がそこにあると治らないということです。肩甲間部は普段より冷やさないように、そして猫背にならないように意識してください。

◎平成25年度後期の主な行事予定◎

- 11月 1日(金) 普通部保護者参観日
- 6日(水) 総合防災訓練
- 16日(土) PTAバザー
- 27日(水) マラソン大会
- 12月 20日(金) 生徒会合同クリスマス会
- 21日(土) クリスマス礼拝・祝会
- 25日(水)~1月7日(火) 冬休み
- 1月 25日(土) 学校開放「お餅つき」
- 30日(木) 防災訓練
- 2月 8日(土) 普通部保護者参観日
- 22日(土) あん摩・マッサージ指圧師国家試験
- 23日(日) はり・きゅう師国家試験
- 3月 7日(金) 防災訓練
- 20日(木) 平成25年度卒業式・修了式



PTAバザーのご案内

今年も恒例となりましたPTAバザーを開催致します。お好み焼き・豚汁・カレー等の模擬店、生花の鉢植え、普通部生徒による手作りお菓子・雑貨などの販売の他、理療科では生徒によるクイックマッサージ・フリーマーケットが催されます。ぜひ、お立ち寄りください。

◎日 時 11月16日(土)12:00~15:00(雨天決行)

◎場 所 横浜訓盲学院 前庭・講堂など

平成26年1月25日(土)に横浜訓盲学院の学校開放では恒例のお餅つき大会を開催します。例年地域の方々をはじめ、150名以上が集う大変賑やかな会です。大人がつく大日と、子供がつく小日を用意しており、皆で餅をついていきます。

重い杵を振り上げて、かけ声をかけながら餅をつく、応援している人も皆一体となって、人の和の大切さ、そして横浜訓盲学院は地域の皆様に支えられているのだと、年始めからとても温かい気持ちになります。今年度も沢山の蒸した餅米を用意し、つきたての餅にあんこやきな粉をまぶして振るまい、また、大福作り体験を予定しております。柔らかい餅にあんこを入れ、くるくると丸める作業は、小さいお子様から大人まで大変人気のあるコーナーです。

日程が近くなりましたら、学院近くの掲示板に詳細のお知らせを掲示致しますので、是非ふるってご参加ください。

今年度も来校者の皆様の笑顔を見るのが楽しみです。お待ちしております!

臨床実習のご案内

当学院では授業の一環として、あんま・マッサージ・指圧および、はり灸の臨床(治療)を行っています。是非ご利用下さい。



★あんま・マッサージ・指圧・はり灸・水・木・金曜日

料金 一律 1000円

時間 前半 9:50~
後半 10:50~
(各50分ずつ)

◆ご予約は電話で!

当日の朝 8:45~9:10

電話 090-9009-5882

◆お問い合わせは理療科まで

電話 045-662-1833

平成26年度生徒募集

【普通部】 幼児・児童・生徒募集

○募集定員

| | |
|-------------------|-------|
| 幼稚部 (3歳児・4歳児・5歳児) | 計6名 |
| 小学部 | 1年生4名 |
| 中学部 | 1年生4名 |
| 高等部普通科 | 1年生4名 |
| 高等部専攻科生活科 | 1年生4名 |

○募集期間

《一次》平成25年11月1日~平成25年11月22日
《二次》平成26年1月10日~平成26年2月28日

○入学検定日

《第1回検定日》平成25年12月7日(土)午前9時~
《第2回検定日》随時。

○お問い合わせ

普通部(直通) TEL.045-662-1710

【高等部理療科】 生徒募集

○募集定員

| | |
|--------------------|-------|
| 高等部専攻科保健理療科 (3年課程) | 1年生4名 |
| 高等部専攻科理療科 (3年課程) | 1年生8名 |

○募集期間

《一次》平成25年11月1日~平成26年1月10日
《二次》平成26年1月20日~平成26年3月7日

○入学検定日

《第1回検定日》平成26年1月18日(土)午前9時~
《第2回検定日》随時。出願書類提出後、調整のうえ試験日を定め実施。

○お問い合わせ

理療科(直通) TEL.045-662-1833

—ご協力のお願い—

(平成25年度 賛助会員)

私どもの視覚障害教育にご理解いただき、ご支援下さる団体・個人の方々の賛助会員を募集しております。よろしくお願ひ申し上げます。

【年会費】 団体会員(1口)10,000円/個人会員(1口)1,000円(口数は問いません)
【お支払い方法】 ・郵便振替[加入者名]学校法人横浜訓盲学院(口座番号00200-5-40861)
・現金

【その他】 会費以外に寄附金も有難くお受けいたします。

【免税措置】 ・会費は寄付金として扱われ、横浜訓盲学院より領収書が発行されます。
・当校は特定公益増進法人の認可を受けておりますので、法人の場合は、一般の寄付金とは別枠で免税会計処理ができます。
・個人の場合は、2,000円を超える金額に対して免税されます。

【お問合せ先】 横浜訓盲学院 事務部 TEL.045-641-2626